

アジアの鉄人

みなさんは、陸上競技の十種競技（decathlon）を知っていますか。

十種競技は2日間で十種目の競技をしなければなりません。十種目の記録

を点にして、点数の合計で順位が決まります。



(上の絵の左から1日目：100m走、走幅跳、砲丸投、走高跳、400m走)

(下の絵の左から2日目：110mハードル、円盤投、棒高跳、やり投げ、1500m走)

実は、私は一度だけ十種競技をしたことがあります。大学3年生の秋でした。

記録あまりよくありませんでした。ただ、十種競技が終わった次の日、歩くと

体中が痛くて、階段をのぼることもできなかったことをよく覚えています。

どうして私が十種競技をしたかという、それは、高校生のときの陸上部

の先生、岩井寿史（いわいひさし）先生が十種競技のアジアチャンピオンだっ

たからです。ただのチャンピオンではなく、「アジアの鉄人」というニックネー

ムがありました。なぜ「アジアの鉄人」と呼ばれたのでしょうか。

1978年12月17日・18日にタイのバンコクで陸上競技のアジア大会が行われ

ました。この大会に出場した岩井寿史選手は、十種競技の2日目、棒高跳の

着地に失敗して、右足のかかとを骨折してしまいました。普通の人なら、ここ

で十種競技をやめるでしょう。歩くこともできなかったかもしれません。しかし、岩井選手は痛み止めの注射を打って競技を続けました。やりを投げ、1500mを走り切りました。記録は7003点で優勝しました。それから岩井選手は「アジアの鉄人」と呼ばれるようになりました。

その後、「アジアの鉄人」は高校の体育の先生になりました。俳優のようなケメンで、ちょっと怖い先生でした。高校生のとき、私は陸上部に入りました。そこで岩井先生と出会いました。私は特別、足が速いわけではありませんでした。岩井先生にほめられたことも怒られたこともありませんでした。

高校を卒業して、大学3年生の冬、岩井先生に会いました。私の十種競技の記録を見せたら、嬉しそうな顔をしていたのを覚えています。その後、なかなか会う機会はありませんでした。そして2020年10月13日に「アジアの鉄人」はこの世を去りました。65歳でした。

(797字)

(2020.4 Written by Ryozo SASAKI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.